



～本年度 最後の参観日～

14日(金)は、平日にも関わらず、たくさんの保護者・地域の皆様にご参観いただきありがとうございました。本年度最後の参観授業は、子ども達の1年間の成長ぶりを観ていただきたく、くすのき学級は自立活動を、他の学級は研究教科の算数を行いました。学級懇談会の冒頭でも説明しましたように、この1年間、授業で大事にしてきた「既習を生かして考える」や「問題場面や考えを具体物や図等に表して説明する」姿が、子ども達に見られたでしょうか。



これからの時代に求められるのは、既存を活かして新たなものを生み出す力や協働して新たな価値を見出す力だと言われています。先日行われた大学入試(共通テスト)も、答えを求めるのではなく、考え方を問う問題へと変わりました。本校の児童が高校受験をする頃には、暗記が通用しない試験問題へと変わっていることでしょう。子どもたちの将来を見据え、必要な資質・能力を育む授業に、これからも努めてまいります。

～防災標語の表彰&初めての引き渡し訓練～

授業参観後の引き渡し訓練の前に、「令和6年度四万十市防災標語」の優秀賞に選ばれた、田中さん(5年生)の表彰式を行いました。表彰式では、四万十市自主防災連絡協議会の杉本会長から、表彰状と副賞の防災リュックが手渡されました。

田中さん作の標語「**ふりむかず いそいでにげよう つなみから**」

は、本校の防災教育の合言葉にしていきたいと思います。田中さん、おめでとう!



表彰式の後には、児童と保護者に第一避難場所(大橋)に移動してもらい、引き渡し訓練を行いました。今回の避難訓練の目的は「児童を安全かつ確実に保護者や引き取り者に引き渡せるようにする」こと。そのため、引き渡しカードに名前が書かれてある方のみ引き渡しを行いました。引き渡しの手順は、次の通りです。

- ①引き取り者は、地区担当者に自分の名前と児童との関係を申し出る。例「〇〇の母の～です」
- ②地区担当者は児童を呼び出し、関係を確認する。例「〇〇さんのお母さんで間違いないですか」
- ③引き渡しカードに「いつ」「誰に」を記入してから引き取り者に児童を引き渡す。

今回の訓練では、引き渡しカードに名前がなく、引き渡せないケースがありました。本当に災害が起こった時には、保護者が迎えに来られるとは限らないと思います。来年度の引き渡しカードには、できるだけ多くの引き取り者の名前と間柄を記入していただければと思います。

また、引き渡し訓練後に、「子どもたちはいつまで大橋にいるのか」との質問がありました。その時の状況にもよりますが、水が引いた後は防災広場に移動するようになります。現状では、移動したことを知らせる手だてが決まっていないことに気づかされました。tetoru か災害伝言ダイヤルか、より良い連絡手段を検討し、保護者の皆様にお伝えしたいと思います。この他にも、今回の訓練を通じてお気づきの点やご提案等がございましたら、遠慮なくお知らせください。次年度も、様々なケースを想定した避難訓練を実施したいと考えていますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



最後になりましたが、今回の引き渡し訓練を行うにあたっては、実崎の池本区長さんに避難場所の提供や避難道の整備等、お力添えをいただきました。紙面を通じてお礼を申し上げます。



1・2年生10人が、昔ながらの遊びを体験しました。これは生活科の授業の一環で、地域のお年寄りとおふれあいながら昔の遊び方を学ぼうというもの。八東ニコニコおたすけ隊のみなさん5人（乾さんご夫妻・田中さん・吉井さん・横山さん）を講師に迎え、こま、竹とんぼ、けん玉、おじゃみ、めんこ、おはじき（ビー玉転がし）などを教えてもらいました。



最初は不慣れな様子だった子どもたちも、地域の先輩たちから直接指導を受けると1時間ほどでめきめきと上達。「めちゃくちゃ楽しい!」「こうやって遊ぶがや!」「家でもやってみようかな」などと言いながら、昔の遊びに夢中になっていました。

八東ニコニコおたすけ隊の

みなさんからは、「私たちの方こそ楽しい時間をありがとうございました。」「子どもたちから元気をもらいましたよ。」などと、ありがたい声をいただきました。



今回、昔遊びをやってみて、改めて手先の器用さや反射神経など鍛えられるものが多いなと感じました。ゲームやスマホでは味わえない、伝統的な遊びの良さを経験できたと思います。急なお願いにもかかわらず、快く引き受けて下さった地域の皆様、本当にありがとうございました!